

とちぎグリーン農業の推進

河内農業振興事務所経営普及部

河内地域の地域戦略「「イノベーション5」による園芸立国かわちの実現」

「伝えよう、つなげよう！河内地域の農村活力向上」

普及指導計画の戦略課題名 「持続的に発展できる地域農業の推進」

【キーワード：みどり認定 有機農業 バイオ炭 活動期間：令和4年～6年（継続中）】

抄録

・「とちぎグリーン農業推進方針に基づく取組の計画認定（以下、みどり認定）」は、部内で連携し生産組織への働きかけをおこなったところ、グループ申請2件（117名）、個人申請4件（4名）の認定につながりました。

・有機農業講演会の実施、個別指導、バイオ炭（もみ殻くん炭）試作機の導入打ち合わせ等を関係機関と連携して実施したことにより理解が進み、宇都宮市ではグリーン農業推進協議会が設置されました。

・炭素貯留技術の推進のため、バイオ炭実証ほ設置による、農業者への技術普及とともに、バイオ炭米の試食宣伝など消費者に対するPRを行い、グリーン農業への理解醸成を図りました。

1 取組の背景・ねらい

「環境負荷低減」と「収益性の向上」を両立する農業生産の実現を目指した「とちぎグリーン農業推進方針」が策定されたことを受けて、管内では、R9年までにみどり認定者数940人、有機農業取組面積101ha、バイオ炭取組面積80haの目標を掲げ、実現のために推進体制を整備しながら、計画認定の支援、有機農業の取組支援、バイオ炭による炭素貯留の推進等に取り組みました。

2 活動対象

(1) 対象名

宇都宮市、上三川町、JAうつのみや、管内農業者、認定農業者、生産組織、有機農業者、有機農業志向者、とちぎグリーン農業志向者

(2) 対象の概要

環境保全型農業直接支払交付金を活用し、環境保全型農業に取り組んでいる生産者が104名います。有機農業者は20名ですが、有機農業の志向農家が多い地域です。

3 活動の内容

(1) 指導・支援の体制

市町・JAは「とちぎグリーン農業」の周知と推進を支援し、部会で連携を図り、適正な時期に推進したことにより、生産組織が積極的に計画策定に取り組むことができました。

(2) 活動経過

ア みどり認定推進

JAと各課担当が連携し、いちご、にら、トマト等品目毎の推進資料を作成し、JA専門部の現地検討会等において、認定制度の理解促進を図りました。

また、個人申請者には、面談を実施し、計画作成の支援を行いました。

イ 有機農業の推進

有機農業アドバイザーを各市町 1 名ずつ設置しました。

有機農業を推進するために、水稻、園芸品目のテーマに分けて、有機農業の講演会を 2 回実施するとともに、有機農業者と志向者、関係機関が、ゆるやかなネットワークを構築できるように働きかけました。

ウ バイオ炭取組推進

バイオ炭（もみ殻くん炭）を施用した水稻栽培を実証する展示ほを管内 3 か所に設置し、生育調査等を実施しました。

JAうつのみやと連携し、現地検討会等において、バイオ炭の概要と展示ほの調査結果を生産者にフィードバックし、バイオ炭の施用による炭素貯留技術について周知を図りました。



写真1. バイオ炭散布の様子

また、宇都宮市と連携し「農林業祭」において、バイオ炭を施用したほ場で生産された米の試食など、消費者へのPRを行いました。

4 活動の成果

(1) みどり認定推進

「みどり認定」は、適正な時期に生産組織への理解促進を図ったところ、R6年度はJAうつのみやりんご専門部（18 名）、にら専門部（99 名）のグループ申請、個人申請 4 名（水稻、ねぎ等）の認定につながりました。

(2) グリーン農業の理解促進

関係機関や農業者との情報共有等の連携を深めたことにより、グリーン農業への理解が進み、宇都宮市ではグリーン農業推進協議会が設置され「とちぎグリーン農業」を地域として推進できる体制が整いました。

その結果、今年度の有機農業の取組面積は 61ha、バイオ炭施用面積は 89a となりました。

5 今後の課題と方向

(1) みどり認定推進

JAと連携して、JA 専門部によるグループ申請を中心に、みどり認定の推進を図ります。

(2) バイオ炭の利用推進

現在施用しているバイオ炭は、他県からの購入に頼っているため、輸送費用などのコストが課題です。利用拡大を進めるには地元や農家でバイオ炭を製造できる環境を整える必要があり、宇都宮市や企業等と連携を図りながら、地元でバイオ炭を作製できる環境を整えています。

また、水稻以外での施用の可能性を探るため、小麦、園芸品目等へのバイオ炭利用推進等、協議会と連携して支援していきます。

さらに、SNS 等の活用やテスト販売することで、バイオ炭米を消費者へPRし、グリーン農業への理解醸成を図ります。



写真2. 農林業祭でバイオ炭米のPR

安足地域における果樹のグリーン農業の推進

安足農業振興事務所経営普及部

安足地域の地域戦略 「人材育成と先端技術の活用による安足園芸の発展」

普及指導計画の戦略課題名 「とちぎグリーン農業の推進」

【キーワード：なし、みどり認定、いちじく、バイオ炭 活動期間：令和5年～6年（継続中）】

抄録

- ・部会独自で天敵を活用したなしの防除指針を作成し、化学農薬の削減に取り組んでいます。
- ・部会全体が環境負荷低減への意識が高まったことで、みどり認定の取得につながりました。
- ・いちじくせん定枝のバイオ炭を作製し、土壌改良資材としてほ場への還元を試みました。

1 取組の背景・ねらい

安足管内では、「とちぎグリーン農業推進方針」に基づき取組方策を推進しています。果樹生産者に対しては、これまでの化学農薬や化学肥料の低減に加えて、新たに生物多様性の保護や脱炭素等の取組を推進し、グリーン農業の普及定着に向けて支援しました。

2 活動対象

(1) 対象名

JA 佐野果樹部会、JA 佐野いちじく栽培研究会等

(2) 対象の概要

JA 佐野果樹部会（以下、部会）は、41 戸でなし 26ha、もも 8ha を作付けし、佐野フルーツラインを中心とした自営店舗による直売主体の産地となっています。JA 佐野いちじく栽培研究会（以下、研究会）は、18 戸でいちじく 1.7ha を作付けし、主に JA を通じた市場出荷型の産地となっています。

3 活動の内容

(1) 指導・支援の体制

所内に「とちぎグリーン農業推進チーム」を設置し、所内で連携して取組を推進しました。果樹の生産現場では、JA 佐野と協力して各生産組織へ支援を行いました。

(2) 活動経過

ア なしの化学農薬低減に向けた天敵利用の推進

気候変動に伴う温暖化の進行により、ハダニ類の被害が増加していることから、講習会や個別指導を通じて天敵利用による防除技術を推進し、土着天敵を保護するための草生管理を指導しました。

化学農薬低減の防除体系を定着させるため、部会研究部や天敵資材メーカーと連携し、ハダニ類の天敵を利用した防除指針の検討を進めました。



写真1 天敵資材の取り付け

イ JA 佐野果樹部会における「みどり認定」の推進

部会では、天敵利用を推進するとともに、これまで多くの部会員がエコファーマーを取得し、環境負荷低減技術に取り組んできました。今回「みどりの食料システム法」の施行に伴い、農業者ごとの取組から産地として組織的な活動へ展開させるため、JA 佐野や部会役員と協力し、みどり認定（グループ認定）を推進しました。

ウ いちじくのせん定枝を使ったバイオ炭作製技術の実証

いちじくは、弱アルカリ性土壌を好むため、土壌改良資材の連年施用が必要です。そこで、せん定枝を使ったバイオ炭に着目し、炭素貯留はもとより、せん定枝を資源として活用するため、研究会の協力の下、バイオ炭作製技術の展示ほを設置しました。

また、バイオ炭の特性や作製方法等を理解するため、農業総合研究センターの研究員を講師に招き、いちじく生産者を対象とした現地検討会を開催しました。

4 活動の成果

(1) なしの天敵を活用した病虫害防除技術の確立

部会では、ハダニ類の天敵を利用した防除指針を独自に作り、化学農薬の使用を慣行より約1割削減しています。

防除指針は、部会研究部において当年産に発生した病虫害の状況を振り返り、毎年見直しています。

(2) JA 佐野果樹部会における「みどり認定」の取得

部会の方針として、化学農薬や化学肥料の低減、生物多様性を確保するための生産管理の導入について合意され、令和6年1月にグループ認定されました。



写真2 みどり認定証の交付

(3) いちじくのせん定枝を使ったバイオ炭作製技術の実証

モキ製の無煙炭化器を使用して、せん定枝からバイオ炭を作製した結果、10a当たりのせん定枝から作製できた炭の量は約18kg、炭化時間は約3.7時間であることが分かりました（枝の水分含量33.9%の場合）。

また、展示ほを設置したことで、研究会員1名がバイオ炭を作製し、土壌改良資材としてほ場へ還元する取り組みが試行されました。



写真3 せん定枝を使ったバイオ炭

5 今後の課題と方向

(1) みどり認定に伴う取組の強化と情報発信

部会に対して、計画達成に向けて、引き続き技術的な指導を行うとともに、みどり認定の取組を見える化するため、積極的な情報発信を行うよう支援していきます。

(2) 関係機関・団体と一体的なバイオ炭の活用推進

土壌改良資材としてのバイオ炭の効果を確認していくとともに、作製にあたっては、せん定枝を野外で燃焼させる作業が伴うため、市等との調整を図りながら、バイオ炭の取組に対する地域関係者の理解促進に向けて情報提供していきます。